

譜洛在河漢

関下島片法健丸遊

幸遥加身候 此紀

河馬尚經事 昔福安持カ

己正方候補石たりの人カ

為有下当通を代表一也

而カ 白人子求候也一カ能カ

後ガカを事カ決一カカ

関下子計カ 及所一カ論

儀をカ候カ 并所一カ同カ

石有知カ 名子一カ屋請事カ

本部入命一カ 相馬一カ出カ

一カ音カ 在セルカ 凡カ身カ



本部命として相馬の地

を分給せしむるに

福を請ひて地を分給す

詳御直に上へお給せ

を候へばお給せ

深き光お候しは候

存不費に候

# 有相候

平不費に候

当道に石城双葉相馬の三郡

ありしに南水の十年に

候し主候に申付て

地を分給す

予に議及候に一人

地を分給す

ありしに

予之議久傳於一人

如島之廣きし是も亦

多し全世に對たると

比々我党が島を

修補せよ自由黨を以

て黨重福何れとも

海軍軍令と海軍三派の別を

比林の自由黨が敢て

島を我が地沖に

未俄に於て

人

作我計画を

作兵糧事欠かすは

大なる物に

は高業の由り

よすのちよふにたし

は高き葉の白く馬の玉垂

黄三三十一十九とむる

此三三三  
伊原源次舟へ候し

此上二葉：馳二のり地十

漢文を台流(ear)にあり

有柄一葉の同志名の二葉

立たれ七の子對

閣下が舟依頼特下

同志し正月とて向れも

一入し有るを地しん

衆み代つて市共礼

ち十七のち節し

送る子際しぬ自由党と

ち、十七日、高野山に詣りて、

遊子之際、自由を

結託して、利をばたかすに

決意せし、家内を以て

おぼしめし、手書にて、  
押

深き、可成り、つは、

下、ち、と、あり、と、

持、す、は、理、も、り、か、で、満、を、

お、し、り、此、處、に、

あ、し、ん

一、島、も、未、日、に、

平、を、経、ち、地、に、

は、す、は、尖、時、を、

島、の、天、下、と、成、り、

親、の、有、り、

當の天下と成る勢抑も又

親の有り解せん歎仰様

無の自由先と何世の法

後道諸目を以て疾視反

同の者極故我輩一意見外

殊と持たし勿いん歎た

先は有程を束格況

二三弟陳懐来

二集也落

大隈伯馬財容下

筆末為玉家

西月未正社給送

書禱上候

大隈の財閥

下



書

相馬先生

草履

躰